

## 極短穂性を有する WCS 用イネ早生品種「つきはやか」の

### 奨励品種採用

利用対象：WCS 用イネを栽培する経営体、指導機関

ホールクロップサイレージ（以下、WCS）として利用されるイネは、牛での消化性が劣る籾の割合が少なく、WCS の調製に必要な可溶性炭水化物含量が高い等の特性が求められます。県内では、WCS 用イネの栽培における早生品種として「夢あおば」が多く利用されていますが、穂重型のため飼料の栄養価が低いことが問題となっていました。そこで、「夢あおば」に近い収穫時期で、極短穂性を有する WCS 用イネ品種を奨励品種に採用します。

#### 品種の特徴（「夢あおば」との比較）

- 出穂期が9日、黄熟期が8日程度遅い。
- 穂部割合が小さく、茎葉乾物収量が多い。
- 茎葉部の可消化養分総量が高く、飼料利用効率に優れる。
- 可溶性炭水化物含量が乾物中10%以上と高いことから、サイレージ発酵に有用。

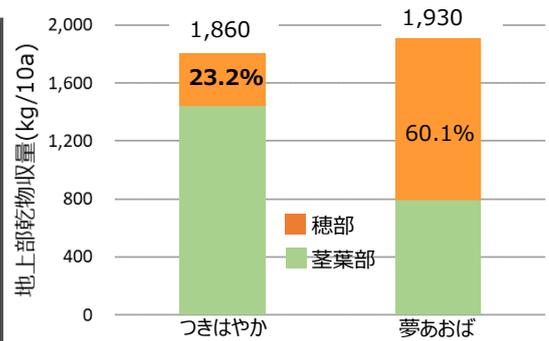


表1 出穂期および黄熟期の生育特性

品種	出穂期 (月/日)	黄熟期 (月/日)	黄熟期						
			草丈 (cm)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	見かけの 穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	籾体水分 含有率(%)	倒伏程度 (0無-5甚)
つきはやか	7/22	8/15	139	102	18.8	16.5	265	58.8	0.0
(比)夢あおば	7/13	8/7	109	91	21.4	21.4	319	62.7	0.0

注1) 2022年と2023年の2ヶ年の平均値。表2、図1共通。

注2) 移植日：4/25、栽植密度：60株/坪、植付け本数：4本/株、総窒素施肥量：13.2kg/10a。表2、図1共通。

注3) 黄熟期は、出穂期からの積算日平均気温が680℃に到達し、かつ黄化籾の割合が50～75%になった日。

表2 黄熟期の飼料栄養成分（乾物中%）

品種	粗たん白質 (%)	炭水化物（繊維）			炭水化物（非繊維）			TDN* (籾+茎葉) (%)	推定TDN (茎葉) (%)
		NDF* (%)	ADF* (%)	リグニン (%)	NFC* (%)	でんぷん (%)	可溶性炭水 化物(%)		
つきはやか	5.1	41.8	28.1	3.5	42.3	27.1	14.1	60.6	55.3
(比)夢あおば	6.1	40.6	29.4	4.3	40.9	33.1	3.7	59.3	31.2

\* NDF：中性デタージェント繊維、ADF：酸性デタージェント繊維、NFC：非繊維性炭水化物、TDN：可消化養分総量

注1) 推定TDNは、籾を除いた茎葉部のTDN値。

注2) 推定TDNの算出には、日本標準飼料成分表(2009)における籾のTDN値(77.7%)を用いた。

(利用上の留意点)

- ・「つきはやか」は黄熟期より早い段階で収穫可能となる籾体水分及び可溶性炭水化物含量に達する傾向があるため、出穂後20日程度を目安に籾体水分や籾の黄化割合、固さを確認し、適宜収穫の判断を行うことが必要です。
- ・「つきはやか」は、農研機構（育成地）における保毒虫接種による幼苗検定法により、イネ縞葉枯病に抵抗性があることが確認されています。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 山古咲綺 電話 0598-42-6359 中央農業改良普及センター 山本泰也 電話 0598-42-6705
参考になる資料	<a href="http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a>